

授業研究部

本年度の取り組み

- ①各学年の研究授業（学年度と1回実施）では、授業者が研究仮説に基づいた「授業を見る視点シート」を事前に作成し、見る観点を明確にした。
協議会では、出された意見について再協議をする時間を設定し、深化を図った。
- ②国語科、算数科において、目指す児童像に迫るために本校の実態に即した手立ての具体策を討議し、明確化した。
- ③国語科、算数科において、基本的な一時間の流れを作成した。
- ④児童の「振り返りの視点」を明確にし、全校で共通理解を図った。
- ⑤主任層の教員の師範授業から学ぶ機会を設ける。また教師が自身の授業を振り返るために、「授業振り返りシート」を作成し、学年会で指導方法を共有した。

成果

- ①授業を見る観点を限定することで、協議会での話し合いがより具体的になった。授業の何がよく、何が課題であったのか明確にすることができた。また、出された意見について再協議の時間を十分に取ることで、仮説に迫る研究に一步近づいた。
- ②国語科、算数科それぞれに児童に付けたい力を話し合うことで、目指す方針を持つことができた。
（本年度の方針として、基礎学力の向上とA児童をいかに満足させるかが挙げられる。）
- ③基本的な1時間の流れを示すことで、次に何をやるかがはっきりし、次の学習に素早く移行できた。
どの授業にも形式的に当てはめるのではなく、あくまで基本的な型とした。
- ④振り返りの視点に基づき、書かせることで記述内容が質、量ともに向上した。
- ⑤指導力の高い教員の授業を参観することで「よい授業」について具体的なイメージを持つことができた。また、「授業振り返りシート」を、計4回実施した。学年で授業について話題に上げることで優れた指導方法について共有することができた。また教員が研究仮説を意識し、日頃の実践に取り組むことができた。

課題

- ・学年で共有化を図った優れた指導方法を、いかに学校全体で共有していくか。また、そのための研修の在り方を話し合う。
- ・基礎学力の向上を図るために、6年間を通じて、身に付けたい力を明確にし、計画的に指導していく必要がある。また、一斉指導で上位の子どもも、下位の子どもも満足させるための授業力や発問の工夫が求められる。
- ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業改善が求められる。

【基本的な学習の進め方】低学年用・高学年用、それぞれ作成。

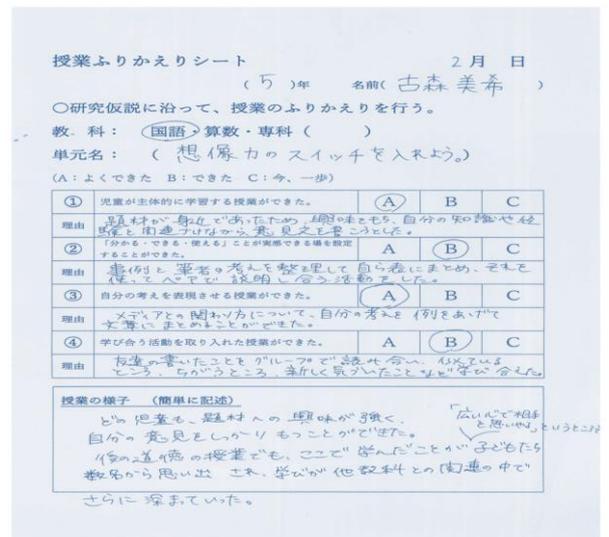
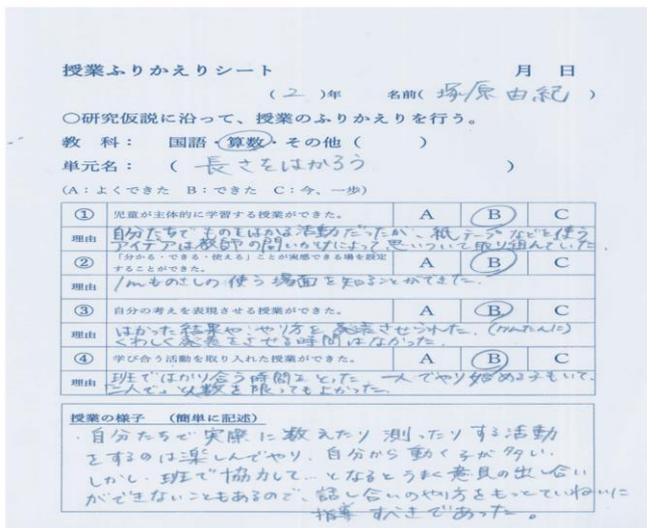
国語

- ① 新出漢字
- ② 前時のふり返し
- ③ 本時の課題
- ④ 読み取り
- ⑤ 学習活動
- ⑥ まとめ
- ⑦ 本時のふり返し

算数

- ① 問題・課題
- ② 見通し
- ③ 自力解決
- ④ 発表
- ⑤ 比べる
- ⑥ 適用問題
- ⑦ まとめ・ふり返し

【授業振り返りシートの活用】



【振り返りの視点の明確化】

低学年

- ### ふりかえりのポイント
- ① わかったこと、気づいたこと
 - ② ぎもんにおもったこと
 - ③ もっと知りたいこと
 - ④ ともだちのかんがえからおもったこと

高学年

- ### 振り返りのポイント
- ① わかったことや気づいたこと
 - ② ぎもんと思ったこと
 - ③ これから考えていきたいこと
 - ④ 友達の考えから深まったこと、考えが深まったこと